

梅花藻

清流・清津川（きよつがわ）は、三俣（みつまた）を通過して信濃川（しなのがわ）に合流したのち日本海（にほんかい）に注いでいる。川の源流は白砂山（しらすなやま）（2,140m）にあり、近隣の3つの山からの小川がその流れを作り出している。

イワナと梅花藻が水中に生息しているということは、川がきれいな証拠である。サケ科の一種で冷水魚のイワナは、体の色が濃く、明るいクリーム色やピンク色、赤色の斑点が付いており、鱗は小さい。梅花藻はキンポウゲ科の一種の水生多年生植物で、北日本に自生しており、砂地や速い流れ、水温摂氏 15～25 度の冷水を好む。茎は長さ 1 メートルほどまで育ち、より糸状の葉は幅が約 0.5 ミリメートルで、長さは最大 6 センチメートルになる。初夏から初秋にかけては花弁が 5 枚の白い花が咲く。

イワナと梅花藻は、伊米（いめ）神社の小川など湯沢の他の場所でも見ることができる。しかし、梅花藻が育つほど水がきれいな川はますます希少になっており、一部の県では梅花藻が絶滅危惧種に指定されている。梅花藻は金魚鉢の中に入れるほか、酢の物にしたり味噌汁に入れたりして食用として供されることも多い。